

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

専門教育科目／2単位／TS授業

担当教員 川崎順子 日田剛 三宮基裕 清水径子 兒崎友美

※添削とスクーリング部分については、複数の教員により行う。

■使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 「最新 社会福祉士養成講座第8巻 ソーシャルワーク実習指導・実習（社会専門）」 中央法規出版
◆参考テキスト	・社団法人 日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版 ・新日本法規『社会福祉六法』（最新版）

講義概要・一般目標

ソーシャルワーク実習指導の目標は、①ソーシャルワーク実習（以下、現場実習）の意義について理解する
②現場実習に係る個人指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する（DP3）③社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する（DP7）④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する（DP6）となります。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、自分が希望する実習分野の特色、役割などを明確にし、現場実習で何を学ぶのか実習課題、実習計画について明らかにしていきます。この実習事前学習を丹念に行うことで、実際に現場実習で体験したことを理論と結びつけ体得する（DP7）ことに繋がります。

本学の現場実習における実習分野の選択は、原則学生の希望を尊重しており、実習先機関・施設の種別も、特別養護老人ホームや、児童養護施設、身体障害者や知的障害者の入所施設など多種類に渡っています。スクーリングでは、すべての種別に共通した内容の事前指導を行いつつ、それぞれの実習先機関・施設における実習課題の明確化と課題達成のための実習内容の検討を行います。

現場実習は、これまで学習してきた知識を実際に現場で活用するとともに、現場での経験によってより一層、ソーシャルワークについての理解と経験を深めていくことが目的です。単に国家試験の受験資格を取得することが目的では決してありません。現場実習指導も、その認識の上に立って、真摯な気持ちで臨んでいただきたいと思います。

到達目標

- 1) 実習の事前準備に必要な心構えができる。
- 2) 実習先の概要や法的根拠・役割・機能が説明できる。
- 3) 実習先の業務内容や利用者の特性が説明できる。
- 4) 専門職に必要とされる知識・技術について説明できる。
- 5) 実習目標・課題を明確に設定することができる。

実務経験のある教員による教育

実務経験（社会福祉士等）のある担当教員による実践に即した指導をおこなう。

評価方法

T部分：提出物「実習生自己紹介書」「実習先の概要」「実習計画書」等により評価。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

第2章 実習先決定に向けた準備 第2節 実習記録の書き方

実習では実習プログラムに従い、日々の達成目標を掲げ、その到達状況や実習で学んだことを考察していくこととなる。記録の目的を理解し、どのような内容をどのように記録していくのか具体的な記述法を学ぶ。

第3章 実習先決定後の準備 第1節 実習先決定後の学習の内容と方法

実習までに学習すべき内容を理解し計画的に準備が進められるよう添削課題をもとに指導していく。実習を意義あるものにしていくためには、実習で何を学びたいのかをより具体的にしていくことが必要となる。そのため、まず実習先の法的根拠・実習先概要や理念、地域の特色などをまとめ、実習先が果たしている役割を理解する。

第4章 実習中の学習 第1節 実習スーパービジョン

実習スーパービジョンの意義や目的、実習指導者や実習指導担当教員とのスーパービジョン関係や、実際の内容について理解を深める。実習におけるスーパービジョンの関係性を理解し、積極的にスーパービジョンを受けとめることができるようスーパーバイザーとして実習生に求められる姿勢を学ぶ。

第4章 実習中の学習 第3節 実習中に直面する悩み 第4節 実習中に起こり得る問題

実習では、実際に利用者や職員・関係者等との関わりを通して学びを深めていくが、予想もしていない事案に遭遇するのではないかという不安や対応の仕方に戸惑うことも考えられる。どのような場面に遭遇すると考えられるのか、事例を通して学び、実習生としての対応の仕方や不安軽減のための行動のあり方を学ぶ。

また、実習生はどのような立場で実習に臨むべきか、実習中に求められる基本的な心構えや配慮すべき事柄を理解する。社会人としてのマナーとはどのような内容であるのか、自身の日常を振り返り自己覚知していく。また、プライバシー保護と守秘義務についても再確認していく。

第5章 実習後の学習 第1節 実習後に行う評価

実習後に行うスーパービジョンや自己評価・他者評価について、その目的、概要を理解しておくことで、実習中→実習後の学習プロセスを事前に把握して実習後の学習につなげることができる。

第6章 実習の実際

さまざまな実習施設・機関で想定された事例を用いて、厚生労働省通知で示されている「ソーシャルワーク実習」の教育に含むべき事項について確認し、「ソーシャルワーク実習教育内容・実習評価ガイドライン」における達成目標を踏まえ、実習で学ぶ意義について理解する。

*スクーリングでは、実習に対する疑問への対応や実習課題の明確化を図り、課題達成のために必要な事前学習の再確認を行う。また、実習生としてのマナーや実習中の注意事項等の最終確認を行うとともに、実習記録の重要性和書き方を指導していく。さらに、実習期間中、日々の業務の中でソーシャルワークの視点をどのように見出し維持していくのか、実習先におけるソーシャルワークの学びの視点を確立できるよう指導していく。